

地域活動協議会への支援状況(運営)

【浪速区】(受託者:株式会社 地域環境計画研究所)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
地活協を構成する活動主体同士や、地活協と他の活動主体との連携・協働が促進されている	地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】		【期末】1月～	ふれあい喫茶事業の新たな担い手探しの支援	ふれあい喫茶の運営にあたるボランティアスタッフの会議に参加し、スタッフの高齢化や人数不足への対策として、新たな担い手を募集するチラシ作成を支援した。 	日本橋地域活動協議会
		新たな担い手探しや事業実施を中心に地域運営の工夫を考える	【期末】11月23日	なにわ区ラガ『地域デビューのすすめ』開催	中央、西、天王寺、浪速の4区でつくる青少年指導員協議会中央ブロック研修会として、浪速区青少年指導員協議会・浪速区まちづくりセンターとの共催でなにわ区ラボを開催。若手勉強会として、地域を支える若い担い手の増やすコツや工夫、事業の質の向上について各区参加者同士の情報共有・意見交換をおこなった。 (左から:会場風景/各区のブロック代表に聞く地域デビュー/WSのアイデア発表) 	67名参加。 担い手勧誘の工夫や事業のアイデアなど、区を超えて情報交換することができた。 当日は各テーブルのファシリテーター役として、西区、天王寺区、中央区のまちづくりセンターからもスタッフが参加、進行の協力を得た。
	地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】	地域活動協議会への企業参画	4月～	地元企業の地域活動協議会への参加	以前から地域活動に参画していた地元印刷会社が協議会の構成メンバーに加わった。すでに協力体制は整っていたが、こうした企業との連携をメンバー全員で共有するものとして、新たな構成団体として歓迎されている様子。	立葉地域活動協議会 地元印刷会社が今年度より構成団体として参画。事業告知用ポスターの印刷や、会場提供などで貢献している。
	地域公共人材の活用					
III 組織運営						
議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営	運営の自立支援		通年	運営委員会の支援	地活協の運営委員会に出席し、定数、議事の進行、議事録作成などの支援をおこなっている。	全地活協で実施
			通年	運営委員の役割の明確化	地活協の役員の役割を整理し、円滑な運営ができるよう役員間の調整をおこなっている。	全地活協で実施
			7月15日 【期末】11月12日	地域活動協議会会長会の実施	(7月) 浪速区役所市民協働課とともに地活協の会長会を開催。9割が共同住宅という浪速区での地域活動の裾野の拡大には、マンション住民の参加が欠かせないという認識を共有し、アンケートと情報発信を同時に行うことについて方針を説明したのち意見交換を行った。また、地活協パンフレットの完成を報告し、各地活協での活用を呼びかけた。 (11月) 会長会を開催し、自主財源の確保に向けて民間助成金を紹介した。昨年度の助成金一覧資料を更新して配付し、対象となる事業や採択の倍率など、申請のポイントについてレクチャーをおこなった。	全11地活協の会長に呼びかけ、代理人を含め全地域から参加。
			【期末】9月～12月	市民協働課との支援会議の実施	市民協働課担当者ともまちづくりセンターで上半期の振り返りと、基礎資料として地域別の年齢別人口、外国人比率のデータをもとに、今後の各地域への支援方針について検討した(全5回)。各回の内容は以下の通り。 ①成熟度と取り組みへの意欲度によるグルーピング ②新たな住民の参画を支援するグループについて検討 ③情報発信を中心に支援するグループについて検討 ④運営の充実に支援するグループについて検討 ⑤新体制の地活協に対する支援について検討	合計5回実施
			【期末】1月26日	会議運営手法の研修	浪速区の地活協会長とともに鶴見区のNPO法人榎本地域活動協議会の取り組み「あいより」を視察。多様な住民を巻き込んだ会議運営の手法について学んだ。	地活協役員1名参加
	役員の自立的な会計状況の把握		5～6月	決算書類の広報支援	昨年度末の決算報告を地域に開示するため、決算報告書の作成を支援。地域ごとに発信方法を検討し、地域の掲示板や会館での掲出、ブログ、広報紙への掲載などを行った。	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【浪速区】(受託者:株式会社 地域環境計画研究所)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)	
会計事務の適正な執行		自主財源の獲得支援	【期末】11月～	民間助成金の獲得支援	地域のニーズのヒアリングをもとに、関連性のある民間助成金の選定、要綱の手配を行ったのち、申請書類作成を支援。	全11地域へ情報提供した結果、敷津、幸町地活協で申請。浪速地活協も書類作成が完了しており、2次募集で申請予定。	
		自立的な会計事務への支援	【期末】10月～	会計事務作業内容の共有に向けた支援	会計役員への事務負担集中を避けるため、分野ごとにリーダーを置くことを提案、リーダー中心に予算・報告を取りまとめるための会議ファンリテーション及び、リーダーへレクチャー等の支援。 	日東地域活動協議会今年度より、中間決算の報告を各分野リーダーが担当。次年度補助金予算も事業ごとの申請書を取りまとめてもらい、申請予定である。	
			【期末】1月～	班運営による事業の会計ルール統一	ふれあい喫茶を複数の班で運営している地活協に対して、会計ルールを統一することをアドバイス、統一ルールを設けるにあたってリーダー会議のファンリテーションを担当したほか、補助金申請書と連動させた会計報告用書類のフォーマット作成を支援した。これにより各回の会計事務の負担を軽減できる見込みである。	現状では1地域のみでの試行にとどまっているが、今後各地域にも提案していきたい。	
民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されている	自立的な広報活動への支援		通年	フェイスブック、ブログ等電子広報媒体の作成支援	事業の告知と報告という両面から、情報発信の必要性を説明し、作成・更新方法をレクチャーしている。更新にかかる担当者(担い手)探しの支援も実施。	11月に幸町地域活動協議会のブログが立ち上がり、11地域中10地域で公開中である。	
			通年	地活協だより等、紙媒体での広報支援	「地活協だより」のひな型を各地活協へ展開し、担当者に作成方法をレクチャーしている。担当者(担い手)不在の場合は、探しかたのアドバイスも。行事予定から決算報告など、情報の取捨選択についても提案している。 	今年度、7地域で発行済み。	
	多様な媒体による広報活動	地域活動協議会の認知度向上と地域への愛着づくり		5月から毎月	浪速区だより「なでしこ」での地活協情報の発信	地域活動に関心のない層にもその存在を意識し、関心を持ってもらうことを目的に、コーナー「なにわ区ラブ通信・なにわコレ?」を企画。毎月、各地活協の事業から1枚の写真をピックアップし、活動のよさや地域の特徴を伝えている。 	
				7月公開	浪速区まちづくりセンターホームページ開設	区広報に掲載した各地活協の取り組みや、情報紙「なにわ区ラブ」など、さまざまな媒体でまちづくりセンターが発信してきた情報、各地活協のブログにもアクセスできる「浪速区の地活協のポータルサイト」として開設した。http://mcnaniwa.jimdo.com/ (トップページのイメージ) 	各地活協のブログや基礎情報、「なにわ区ラブ」のレポートや「なにわ区ラブ」の電子版などを閲覧可能。
			7月24日発行	地活協パンフレット「知ってます? ご近所の子カラ」発行	浪速区内で取り組まれている地域活動と、その背景をイラストで紹介したパンフレットを制作。分野ごとに事業を例示し、事業年度のスケジュールについても掲載し、地活協という団体のアウトラインが理解できる内容をめざした。 	6000部発行。うち1000部は分譲マンションへのアンケートに同封。各地活協にも提供している。 【期末】まちづくりセンターのホームページにPDFデータを掲載し、ダウンロード可能にした。Facebookページ「7289(なにわ区)ラブ」で通知した記事のリーチ数は、453にのぼった。	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【浪速区】(受託者:株式会社 地域環境計画研究所)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
			【期末】11月8日	浪速区民文化祭2015でのパネル展示	浪速区民センターで開催されている「浪速区民文化祭2015」で地活協パンフレットを中心とした展示およびパンフレットの配布をおこなった。日頃近所で実施されている行事の意図や始まった経緯などを紹介する機会となった。 (展示風景) 	150部配布 (文化祭への参加者は、約1,500人)
IV 区独自取組						
(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定している具体的取組を右欄に記載)		地域の歴史や資源を発掘・普及することなどを通して、世代間交流の促進を支援	【期末】9月13日	ナニワ区民まつりで「じもと検定なになわQ」の出展	ナニワ区民まつり会場で、区民に対して浪速区への興味・関心を喚起するため、浪速区の歴史、文化、特徴などをクイズ形式で答えてもらうコーナーを企画・運営。参加賞として、参加者の住んでいる地域の地活協のバッジをプレゼントした。 (左から)ブース外観/実施の様子/プレゼントした地活協バッジ(全11種) 	子どもから大人、地活協役員まで約200人が参加。クイズの再演を希望する地活協もあった。
			【期末】11月3日	「ナニワク・ヒストリー・ツアー」の実施	「かくれスポット大阪」の著書で知られる吉村智博氏(リハティ大阪学芸員)を案内人に、浪速区西部の地域の歴史と産業を学ぶツアーを実施。単なるまち歩きイベントではなく、地域の歴史を地域に住む人々の記憶から解きほぐしていく「浪速区メモリーズ」の一環として企画し、途中では地域住民によるレクチャーなども織り込んだ。 (左から)敷津連合会館でのレクチャー/区内のモニュメントでの解説風景 	参加者16名。 ケーブルテレビチャンネルBAYCOMが当日取材。11/7～9の間「地元ニュース」にて放送・配信がおこなわれた。

※具体的な取組については「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」を参照